

## 令和2年度 岡谷市総合教育会議 会議録

以下のとおり、会議内容について報告いたします。

- 
- 会議名 令和2年度 岡谷市総合教育会議
- 日時 令和2年11月5日（木）午後2時00分～3時30分
- 場所 市役所9階大会議室
- 出席者
- 構成員** 今井竜五市長、岩本博行教育長、草間吉幸教育長職務代理者、  
太田博久教育委員、高木千奈美教育委員、藤森一俊教育委員、  
小平陽子教育委員
- 市長補佐** 小口道生副市長
- 事務局** 白上企画政策部長、木下企画課長、小平統括主幹、廣瀬主幹
- 補助執行** 城田教育部長、両角教育総務課長、竹内主任指導主事、  
山田生涯学習課長、小河原スポーツ振興課長、小口統括主幹、横内主幹  
（説明者）ブランド推進室 日岐室長、伊藤主幹
- 会議事項
- 1 岡谷市小中学校ICT環境整備計画について
  - 2 岡谷シルク 売れる地域ブランド育成・定着支援事業について
  - 3 その他
- 配布資料 岡谷市小中学校ICT環境整備計画  
売れる地域ブランド育成・定着支援事業について
- 

### 開会

- 企画政策部長 皆様お待たせいたしました。  
定刻となりましたので、ただいまより令和2年度、岡谷市総合教育会議  
を開会いたします。  
初めに、今井市長よりごあいさつ申し上げます。

### 市長あいさつ

- 市長 本日は大変お忙しいところ、皆さんには岡谷市総合教育会議にお集まりいた  
だきまして誠にありがとうございます。  
そして教育長さん、並びに教育委員の皆様には日ごろより岡谷市の教育の  
向上それから発展に向けまして、大変なご尽力をいただいておりますことに  
心から感謝申し上げます。  
また、本年は特に、新型コロナウイルス感染症対策ということで、様々な対  
応にも心砕いていただいておりますことにも、重ねて御礼を申し上げたいと  
思います。  
本日の会議でございますが、教育委員会の方から、小中学校ICT環境整備  
計画についてご説明をいただけるということでございます。今後のICT活  
用の重要性を意識する中で、市といたしましても、必要な対応について研究  
して参りたいと考えているところでございます。  
また、市側からでございますが、今年度、関東経済産業局の方から、売れる

地域ブランド育成・定着支援事業の採択を受けました、岡谷シルクブランド化推進についての説明をさせていただきたいと思います。教育委員の皆様には、いろいろな協力をお願いできればと考えているところでございます。

いずれにいたしましてもこの総合教育会議を通じまして、皆様の意思の疎通、連携を図る中で、岡谷市のブランド推進を確実に進めていくことが大切だと思っておりますので、今後ともよろしくお願ひしたいと思ひます。

本日はよろしくお願ひ申し上げます。

## 教育長あいさつ

教育長

それでは教育委員会を代表して、一言ごあいさつを申し上げます。

市長さんはじめ、市長部局の皆様には日頃から、岡谷市の教育行政発展のため、多大なご理解とご支援をいただいておりますことに心より御礼を申し上げます。

ただいま市長さんよりお話もありましたが、先の見えない新型コロナへの対応でございますけれども、学校教育におきましては、6月の学校再開以降、学校の行事や、いろいろな活動にも影響があるなか、子どもたちの学びを保障できるよう、感染防止対策を保ちながら着々と取り組んでいるところでございます。

また、市長部局におかれましては、これまでの、コロナ対策などに大きなご理解とあたたかなご支援を頂戴しておりますことについても、厚く御礼申し上げます。

こうした中、今年度、国はICTを活用いたしました学習環境の早期実現に向け、GIGAスクール構想の取り組みを、大幅に前倒しし、令和2年度中の1人1台の端末導入を目指して取り組んでいるところでございます。

本日は、今後の学習活動の充実に向けて、教育にICTを積極的に活用していくための、教育委員会の計画につきまして説明させていただきます。学校におけるICT活用の現状を動画でご覧をいただきながら、率直な意見交換をお願いしたいと思っております。

本日は大変お世話になりますが、よろしくお願ひ申し上げます。

企画政策部長

それでは早速、本日の会議事項に入らせていただきます。

本会議の運営規則に基づき、これ以降の議事進行につきましては小口副市長にお願いしたいと思ひます。

## 会議事項1 岡谷市小中学校ICT環境整備計画について

副市長

今年の4月に就任をさせていただきましたが、コロナ禍という中で、委員の皆様にご挨拶する機会もなく、今日に至ってしまいました。これからどうかよろしくお願ひいたします。

それではここからは着座にて進めさせていただきますよろしくお願ひいたします。

それでは次第に沿いまして、進めさせていただきます。

会議の終了の予定時刻につきましては、概ね3時20分頃を考えておりま

すので、よろしくお願ひいたします。

初めに、会議事項の1として、今回改定されました、岡谷市小中学校ICT環境整備計画について、教育委員会より説明をお願いいたします。

【教育総務課長、竹内主任指導主事より説明】

(資料) 岡谷市小中学校ICT環境整備計画について

動画視聴 約10分

副市長 ただいま説明がありました、岡谷市のICT教育の現状についての意見交換を行いたいと思います。

最初に市長さんから現状ご覧になられて、ご感想、ご意見がありましたら願ひします。

市長 説明を聞いて、教育現場でどんなことが起きているのか紹介をしていただきまして、理解ができたところであります。この授業を行っている学校現場でICTを活用して、子どもたちの成長を支援していく先生方も非常に苦労されている、暗中模索みたいなところもあるのかなと思ひながら見させていただきました。ビジュアル的に見える英語の授業なんか非常にわかりやすいなと見させていただき、良いと思ひました。

子どもたちは手元に教科書がないのですか？画面をみて授業を受けている様子ですけど。

竹内主任指導主事 教科に応じてです。教科書を使いつつ、画面を見ることもあれば、もう完全にタブレットのみを使って画面を見ながら、ジャストスマイルドリルを使ってという場合もある。その中で、わからないことがあれば教科書に立ち返るというような学習、複合的な指導の方法となっています。

市長 ドリルは、先生の手元で子どもたちが理解しているかどうかわかるようになっている。すごい進歩だと感じた。

感想としては、ICTを活用して授業を進めていく、また子どもたちも授業を受けていくことも必要でしょうし、社会に出てもこういうツールを活用していかなければいけない、必要なことだと理解いたしました。

ただ、まだまだスタート地点についたところかと思ひますが、学校の先生たちもご苦労されているのではないかという感想を思ったところです。

太田教育委員 まだまだ環境整備というところが最大のこの計画の趣旨だと思ひていまして、市長さんからお話があったように、これをどうやって活用するのか、中身や活用の仕方がどうかっていうのは本当に導入した中で試行錯誤しながらより良いものにしていくというプロセスが整備をされてから始まるのかなと教育委員の一員として捉えさせていただいたところでございます。

最終的にはそこをどうしていくのかっていうのが一番の本質だと思ひていまして、整備をした上で活用しながらより良くできるようになったり、今までなかなか難しいことが実現されていくようになったりという側面と同時に失われていくものがあったり不足していくものがあったり、より具体化されてくると

感じています。

ただ、これからの子どもたちにとって必要があるとかないかの問題でなく、これから生きていく社会の中でも、仕事をしていく中でも、日常生活で生活を送っていく中でも扱っていくものになろうかと思います。その時に、各家庭によって環境に差があることも現実かもしれませんが、この学校教育という場面の中で、家庭環境の差を埋めていくことに関して、役立つ役割があると、そういう側面にもなっていると思いましたので、そんな観点で、これから先、何をしていくのか、皆さんと一緒に考えながら活用していければと思います。

小平教育委員 日本がITで遅れているっていうことで言われていたり感じていたりする中で、コロナの関係もあり、大きくここで進んだというのも良かったと思いつつ、教育現場の先生方や教育委員の皆様がすごく対応が大変だったと感じています。

その中でも岡谷市はいろいろな予算をしっかりと配慮してくださっているということで、岡谷市の強さというか、時代の変化に対応する力があると感じました。

あと、多方面に配慮している。例えば、情報リテラシーだったり情報モラル教育だったり、子どもたちの周りを取り巻く環境が大きく変わるということで、それについてもしっかり考えている。先生方が委員会を作って、組織図を見て、全包围網をしっかりと固めてくれていると感じました。

ICTのCはコミュニケーションということを改めて考えたときに、先ほどの授業風景でも、子どもと先生のコミュニケーションが活発になっていて、遠くの人ともコミュニケーションがとれている、とても良い使い方をしている。先生方が苦勞されているということがある反面、うまく使っていることも拝見できて、それも安心できる。これからどうするのが課題だと思うので、子どもたちがコミュニケーションとして、ICTで何を発信するか、すごく重要なことだと感じております。また先生方も、捉え方を選んで頑張っていられるかと思いますが、期待しております。

藤森教育委員 ICTを使った教育という漠然な言葉から、現場の具体的なイメージを見せていただき、ここまでできるのかと改めて感じています。もちろん質の高い教育をこれから目指していける可能性があることは当然ですけど、ICTを上手く活用していくことで、今後、先生方の現状ある負荷を、上手く軽減していける可能性も増えるのかと感じました。

それと、ICTはハード、ソフト面も、技術革新の速い分野。本当に日進月歩、技術の変化も速いものでもありますので、その中でも教育という現場にそういったものが入ることで、技術の進歩と、教育の本質は変わらない部分が課題かと。市でやることですから、予算、計画に基づいてどんどん普及していく新しくなっていく中で、新しく入れ替える、結構ロングスパンになっていくと思いますが、国が導入を進めている中で、現場にどんどん入っていく短期的な視点と、長期的な視野を持ちながら、今後どんな新しい技術が出てくるかっていうことも、考えながらやっていく必要があると感じています。

高木教育委員 ICT化になり、日本だけでなく世界とつながって、子どもたちも学習して

いけるということはすごいことだと思いますし、授業の時も手元でなく、その場で同じものを見ながら勉強できることはすごいこと。いろいろなツールを生かして、学習が進められているということで、子どもたちも学習の幅が広がっていくと思います。と同時に、子どもたちにつけさせたい力、子どもたちが持っている欲しい力って何かと考えると、「聞く」、ただ言葉だけを聞いて想像する力。本を読んで、言葉だけを読んで、想像する力というのも、とても大事だと思います。ツールがなくても想像できる、そういう力もすごく大事だと思いますので、ツールを使って、視覚から聴覚からいろんなものを使いながら、子どもたちの学習を進めていく。ツールがなくても、お互いの心が分かり合って、言葉だけで自分たちが想像していける力を育てていくなどバランスを取りながら、学習をすすめていく必要があると特に感じています。そのバランスが崩れてしまうと、どっちかに転がって行ってしまうのかなって思っています。

草間職務代理 3月末までに端末 3556 台。本当に生徒一人一人にあてがっていただくということで、大変ありがたく思います。

これから教材は先生方や教育委員会で選ぶと思いますが、いわゆる組でない授業が多く進んでいくと思いますので、先生方の研修をしっかりといただいて、良い教材と良い先生方の支援をしていただくように、願うところです。

それで、岡谷独自として、今プログラミング教育で大変素晴らしいことをやろうとしておりますので、ぜひ、岡谷らしさを出すということで、プログラミング教育と1人1台端末を組み合わせて、将来を変えること、工業都市を担うような、興味を持ってもらえるような子どもに育ていく岡谷市にしてほしい。

こういう時代が普通にくる時代のなかで、子どもたちが、岡谷にまた戻ってきてもらえるような、活力ある岡谷の基礎として期待しています。子どもたちが自由に使って、学力向上とともに、コミュニケーションを進めていけますように、大変期待しております。

市長 私たちも長く生きてきて、昭和30年代にはテレビというものが目の前に出現し、その後「テレビっ子」という朝から晩までテレビの番組を見ることができる時代となりまして、それで教育現場からいろんな声があがった。それから、いわゆるコンピューターというものが登場して、その時その時のいろんな時代があり、パソコンになり、そしてスマホなどになり、教育の現場で1人1台端末を使って授業をするという科学技術の力。革新のスピードが速い。そういったものは時代が求めているものですから、子どもたちがそのことを上手にを使って、やっぱり成長していかないといけないと思いますし、その中でもコミュニケーション能力や創造力を助長する、そのためには、そこから離れる時間があったりすることも必要なかと。今一番苦労しているのが、多分現場の先生方かと思います。どうやってこれを使って子どもたちの成長を支援していったらいいのか、その部分がまだ見えてない。日本全国多分見えないと思っています。ですから、その部分でも全体の課題だと思いますけれども、教育委員会としても、今の先生方と学校教育ICT活用推進チーム会議を設置して研究を深めながら、子どもたちの成長に有効に使えるようお願いしたいと思いますし、私

たちも必要な対応を考えていく必要があると思いますので、よろしく願いいたします。

## 会議事項2 岡谷シルク 売れる地域ブランド育成・定着支援事業について

副市長 次に市側から、会議事項2、岡谷シルクのブランド化の取り組みで、今年度、経済産業省、関東経済産業局の採択を受けました、「売れる地域ブランド育成・定着支援事業」について、市のブランド推進室より説明をさせていただきます。

### 【日岐室長、伊藤主幹より説明】

(資料) 新しいシルク文化が生まれるまちへ

#### 売れる地域ブランド育成・定着支援事業について

副市長 ただいまの説明につきまして、教育の皆様から感想をお願いしたいと思います。  
高木教育委員 最初にお聞きしたいことですが、養蚕の規模。これからどんな程度の規模にして、どの程度のものを作れるようにと考えられているのか。今の規模をお聞きしたいです。

日岐室長 昨年地域おこし協力隊を採用させていただきまして、1名の方が養蚕振興の事業に取り組んでおります。その中で、形になっているのは三沢区民農園のボランティアの方たちの場所になります。昨年からはじめましたが今年度につきましては、春と秋で、繭がおよそ春100キロ、秋100キロ採れました。ただ区民農園の状況から言いますと、この段階が現状で最高かと思っています。これから区民農園以外にも、また養蚕振興を広めていきたいと考えておりますので、そういった中で、より一層宮坂製糸さんで糸を採ってもらったり、絹工房さんで糸を織ってもらう、このような事業を展開していく中で、今日皆さんにご協力をいただきたいとご説明させていただきました。

太田教育委員 質問させてください。今回、国の補助金をいただいて、売れる地域ブランド育成定着支援事業ということで、「売れる」というところがキーワードかと思いますが、この意味は単純に、例えばブランドにして製品を作って販売しなさいとかってものではないと思いますが、「売れる」というものはどんな意味合いなのか教えてもらっても良いですか。

日岐室長 この事業につきましては国が今回地域のブランドを生かして活性化に結びつけるという事業のなかの名称としてこの名を使っております。これを岡谷市としては、現在まで地盤を固めてきました岡谷シルクにあてはめてブランド化していきたいと、いろいろな事業展開を行わせていただきました。今現在であれば、やはりこういったコロナ禍でありますので、交流人口・関係人口に結びつけ、その先に行く移住定住に繋げるような事業展開によりまして、このブランド化をやっていく形になっていきますので、製品だけではなく活性化に繋げる事業として考えております。

草間職務代理 岡谷市が小学校中学校で、本当にお蚕様ということで育てたりして慣れ親しんでいるが、なぜか大人になって、その情熱が薄くなってしまふ。このお蚕様を本当に製品、もし着物にすると大変高価というなかなか手が出ないですけども、先ほどの小学校のように、例えばマスクを作るとか、誰もが気軽に手に取

って、シルクの製品を実際触れるような商品にして、気軽に買えるようにしたらどうかと思います。まさに、絹のマスクなんて、岡谷が最もふるさと納税の返礼品にふさわしい、これに力を入れて本当に岡谷のシルクを全国の皆さんに知っていただこうとすれば気軽に手を出せる、こういう高価ですがシルクは肌触りが良いというものを知っていただければ返礼品としても非常に特色がでるし、着物っていう高価なものよりも、インテリアとか身近に触れる利用できるようなものに、もうちょっと考えていただいて、多くの人に知っていただき使っていただくような考え方も、一つのこれからのシルク、岡谷のシルクということで反映させるには良いと思う。

とにかく知っていただくこと、手に取っていただくことが一番大事だと思います。せっかく小中学校で、こんなに生糸、お蚕様を勉強しながら、どうしても大人になるとその辺薄くなってしまいうので、ぜひ、気軽に手を出せるようなことを考えていただきたいと思います。

小平教育委員 地域おこし協力隊の方と交流があり話を聞く中で、知らないことが多くて驚いたが、それは蚕の可能性ということです。私たちが意識しているシルク製品、安いものはいくらでもある中で、なぜシルク製品が売れるのか疑念があったが、お話を聞いていたら、岡谷のポテンシャルは文化的背景と、体験型施設があるということだと思いました。桑を育てて、蚕を育ててっていうところもできるし、機織り機があれば揃っているということは全国で稀だという話ですので、来て滞在して体験できる。どの部分を切り取っても、桑から蚕を育てるすごく手がかかっている活動を1年間してきているが、シルクのまちといっても実際そんなに知らないことがいっぱいあるということ、それも体験の一つにもなる。あと着物文化、鬼滅の刃が今はやっていますけど、あの世界観なんかは、大正くらいか、着物があれだけ若者に浸透して良いきっかけになるのかなと感じたりします。シルクのイベントをすると、着物を着たご婦人が、ずらっと会場いっぱい集まっているのを拝見したことがあるのですが、それも驚いたことの一つでした。何か、うまくって行き方があるのかなと、可能性は感じています。ブランドも今ちょっと曖昧な作り方になっているが、ここでうまく表にされている。確かに問題があることを、うまく整理して強く打ち出していく機会になるのではないかと感じています。

あと、教育で蚕との付き合い方があり、すごくそれは驚いた。命の勉強にもなる。そういう取り組みも、最初に驚いたことですが、いろんな方面から使えるものではないかなと感じています。

太田教育委員 出来上がったものだけではなくて、そこに至る体験型のものがすごくこれから大変だと思いますが、非常に岡谷ならではの良い取り組みではないかなと思いますし、先ほどもふるさと納税の話がありましたけども、この体験をふるさと納税にするなど、そんなこともちょっと将来的に考えて、人を呼び込んでくる、そうすると最近SNS等で、人が人を呼ぶ連鎖になる、あちこちPRしてということもあるようで良いのかと。

今日、教育の会議なので、教育に関連した話をさせていただきますが、先ほど川岸小学校の子どもたちの地域の歴史と産業というものを体験しながら学習し

ていくことも素晴らしいことだと思いますが、やはり大事なものは、まさに歴史と文化であるとありましたけど、なぜ、岡谷で製糸、シルクなのか。シルクのマスクをみんなつくるけど、それはどういう歴史があって、岡谷の先人たちは、どうしてこういうことを市でやってきたかっていうような、そういったところに踏み込んだ学習に結びつけていくこと。岡谷のシルクは過去の栄光だけではなくて、それを未来につなげていくために、いろんなことを考えていかなければいけない。今の産業だとか、過去から現在、未来に至るまで、今そこで体験している子どもたちが大人になった時に、自分の生まれたところがこういうところで、こうだと感じてもらえたりするような機会になれば良いと思いました。

藤森教育委員 岡谷のシルクは過去の栄光に過ぎないじゃないか、逆にそんなことにこだわっているから、なかなか新しいことに取り組めないのではないかと正直思った時期がありました。最近いろんなことを経験しながら、そうじゃないと思うようになってきましたが、なぜ自分がそう思ったのかなって考えると、大人になってしまうと日常生活の中にシルクというものが全く介在せずに生きている。その状態がすごく大きいかと思うのです。その時に今ご説明いただいたことで、結果的に交流人口を増やしたり、さっきの売れるってところに繋がったりと思いますけど、交流人口、それから移住人口、そういうところに繋がっていくという、すごく大きな大事な目標だと思いますが、それはたぶん、ブランド推進をやってきた結果としてブランドというものがあがる程度出来上がって定着をした後の結果ではないかなという気がします。

これを実現するプロセスの中に、まず岡谷のシルクというものを日常の暮らしの中で接したり、使ったりって部分を進めていって、そこができたときにきっと岡谷市全体として、外に向かって答えられたり、実感を持って伝えられるというところに繋がる気がするので、ぜひこのプロセスの中に、先にその市民の中で日常の暮らしの中でどうこの岡谷のシルクというものに親しんでいくのかとか、使っていけるのかみたいな観点を盛り込んで、進めていただければ良いと思います。

高木教育委員 子どもたちがこの自分自身のアイデンティティを確立していくうえで、その郷土に誇りを持ち、自分が生きているところに誇りをもつことがすごく大事だと思う。そういう意味からも、長い歴史の中でその歴史の一部として、お蚕様を飼う、お蚕様と一緒に暮らすという経験をすることが大事なことじゃないかなと思います。私は、母の実家で養蚕をしていたので手伝いをしてきた。そういう経験は自分が生きてきた一コマとしてとても大切なことです。蚕のサナギもたくさん食べてきた。そういう自分の中にあるものをその歴史、岡谷の歴史を自分の中に取り込んでいくことを大事にしていければと思います。

小平教育委員 先日、着物を着てみたい、着物で古い街を歩きたいけどなかなかできないという話をしている中で、岡谷市の職員の方が着物を着てみるのはどうかしらと言ってくださった方がいた。自分たちで織ったもので作る着物、そういうような価格になると思うけど、そうでなくても、古着の着物屋さんが岡谷にできていたり、素敵な着物屋さんがある。体験型の岡谷市というイメージ、歴史的背景を感じる意味では、市の職員の方々が率先して着てくださるのも良いかななんて、



勝手な意見ですがちょっと思いました。

市長

蚕都(さんと)岡谷と言われて「蚕都(さんと)」って良い言葉だと思います。「糸都(いと)」が上田ですね。ブランドでいろいろな使い方はあると思いますが、歴史を感じさせてくれると思います。今、ここにおられる委員さん、みんなが長野県の方なんです。みなさん養蚕にどこかで触れているのです。養蚕のいろんな機械とか、体験をしたりとか、実際経験をしたり…。ところが今、かつてまわりが全部養蚕農家だったのが今は一軒もないという状況となって、小学校の方で、いろんな形でお蚕様に携わってもらっている、そういった場面をつくってもらっているとありがたいと思います。

よく冗談で言うのですが、蚕糸博物館でお蚕様を見て怖がるのが都会の子、可愛いと手を出すのが岡谷の子だって言われるのです。そのくらい、岡谷の子どもたちは、お蚕さんと慣れ親しんでかわいがっているということがありますので、そういった意味でも、根深く、製糸業ということが体の中にしみ込んでいると思っています。

今、教育委員さんにいろんなご意見をいただきました。それぞれ「そうだな」と思いますので、また、市でも、どうしたら実現できるのか考えながら、ひとつひとつやっていかないといけないと思いますし、そうすることで岡谷シルクを立ち上げていけると思っていますし、そのことによって、自分たちが誇りと自信をもつことが大切だと、強くPRしていくためにも、大切だと思います。

大人になると関心が薄れてしまうという話がありましたけど、蚕糸博物館に行くと、夏休みに帰省した親子が、蚕糸博物館に子どもを連れてきて夏休みの研究をしようという方がいらっしゃいますので、この地を離れても、多分小学校とかで、お蚕様と触れた体験がずっと生きていますので、ぜひ教育の方でも、大切にしていいただければと思います。

### 3 その他

副市長

その次に、「その他」でございます。

皆様から何かございましたら、お願いいたします。

(特になし)

ちょっとここで、一つお願いがございます。

先日実行委員会を開催いたしましたものづくりフェア 2021 を、来年の2月5日6日に、コロナの対応をきちっとしながら、ララオカヤを主会場に開催する予定となっております。子どもたちに、岡谷のものづくりのすばらしさを体験していただきたいとして毎年多くの小中学生に参加をいただきます。

教育委員会からもご協力いただきながら、実施をして参りたいと思いますので、こちらをあわせてよろしくお願いいたします。

### 閉会

副市長

それでは、最後に、岩本教育長より、本日のまとめをお願いしたいと思います。

教育長

今井市長さんから率直な思いをお聞きでき、そして、教育委員の思いもしっかり聞いていただきました。ありがとうございました。

みなさんのお話、うなずくばかりで、特にまとめる必要もないのかなと思っ

ていますけども、一応、教育長として感じた点を少々つけて、まとめにさせていただきますと思います。

まず、ICTの環境整備について、市長さんの多大なご尽力で、本当にスピード感を持って整備をしていただいていますこと本当にありがたく思っております。教育長の会議にいきますと、岡谷はいいなあと言われてます。必要な大事なだなどと思うことをきちっと整備をして、あとは、教育の方でがんばってくれという形で、任せていただいて、これもありがたいことと思います。いかに大事な市民の皆さんの税金などを使って整備させていただいているものでありますので、本当に子どもたちのために活用していかなければいけないかなと改めて思っているところであります。

先ほど、動画をみていただきましたが、ICTを使った授業の最後に、子どもたちに笑顔がいっぱいありますし目が輝いていました。やはりICTを使った授業というのは、それなりのメリットというものがあるのではないかと思っております。そんな点をもっと掘り起こして、どういうところに使えば子どもたちの学習のねらいも達成できるのかを見極めながらやっていかなければいけないと思っております。

市長さんから、先生方本当に大変だなというお話をいただきました。このコロナの中で、本当にやることがいっぱいあって、実は英語をやらなければいけないし、新しい教育、いろんな点が本当に入ってきています。先生方はやることがいっぱいの中で、ICTについては研究を進めて授業で活用したい、そういう気持ちがいっぱいあるんです。私は慌てずにじっくり、自分の授業、今やっている授業を見返しながら、いかにそこで少しでもICTを活用した授業ができるかっていうことを着実に考えてやっていただけたら良いかと思っておりますし、教育委員会も大いにその後押しをしていきたいなと思っているところであります。

市民の皆様の期待に応えられるような教育委員会みんなで力を合わせてやっていきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

それからシルクに関わってでございますけれども、私は、このお蚕様っていうのは、教育的な価値、教育的な資源が非常に大きいものがあるなと思っております。命の尊さということもありますし、モノづくりにもつながりますし、そして、キャリア教育にもつながる、もう本当にあらゆる教育に、繋がる素晴らしいその財産、教材かなと思っております。今、教育委員会では、岡谷スタンダードカリキュラムということで、ふるさと学習に岡谷の力を入れておりますし、市長さんはじめ皆さんもご支援いただいているわけでありましてけれども、いっそうこのシルクっていうところを、どの学校でも大事にしながら、子どもたちが、この「岡谷シルク」という言葉をまず知って、そして中身を自分たちで考えやれることをやるというような学習に進めていきたいと思っております。それが、20年30年経った時に、ふるさと岡谷を愛する、そういうところに繋がっていくのではないかと思っております。

ブランド推進室から、貴重な提案をしていただいておりますので、教育委員会としましても、全面的に一緒になって、これを進めてまいりたいと思ってお

りますので、何卒よろしく願いいたします。

今日は、短時間でございましたけれども、総合教育会議ということで、いろいろなお話ができた良い会議だったのではないかなと感じております。

また、これを機会に、いろいろな場面で、私が市長さんに代弁することもあるでしょうし、市長さんとまた直接お話をお聞きする機会もあるかと思えます。さらに、いろいろな意見を交換しながら、教育行政をしっかりと進めてまいりたいと思えます。よろしく願いします。本当にありがとうございました。

副市長

どうもありがとうございました。

本日は委員の皆様から大変貴重なご意見をいただきまして誠にありがとうございました。

以上をもちまして、本日の、会議事項は終了とさせていただきます。

この後、進行を事務局の方にお返しいたします。

部長

はい、ありがとうございました。本日は大変有意義な意見交換をいただきましてありがとうございました。

以上をもちまして、令和2年度岡谷市総合教育会議を終了いたします。